

ビンナガ 北大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

2013年6月にICCATにおいて資源評価が行われ、MSYは31,680トンと推定された。2012年の漁獲量は26,237トン、親魚資源量は $SSB_{2011}/B_{MSY}=0.94$ (0.74 ~ 1.14)、 $F_{2011}/F_{MSY}=0.72$ (0.55 ~ 0.89)と推定され、過剰漁獲ではないが、乱獲状態であると推定された。将来予測は、現行の総漁獲可能量 (TAC) を継続した場合、2019年までに資源が回復する確率が53%となること示された。資源評価の結果を受け、2013年11月に行われたICCAT本会合において、2014~2016年のTACは2.8万トンと決定された。

生物学的特性

- 寿命：10歳以上
- 成熟開始年齢：5歳頃
- 産卵場：西部では北緯25~30度で、中部から東部では北緯10~20度
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料

漁業の特徴

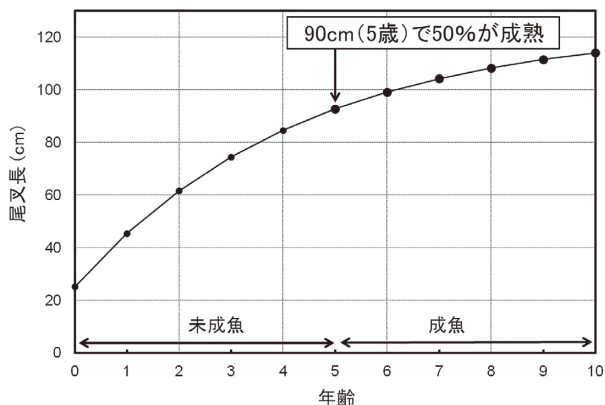
北大西洋のビンナガは、ビスケー湾でスペインのひき縄及び竿釣りで、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣りによって古くから漁獲されてきた。1980年代後半から、新しい表層漁業である流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲は表層漁業による漁獲よりも小さく、多くを台湾が占める。

漁業資源の動向

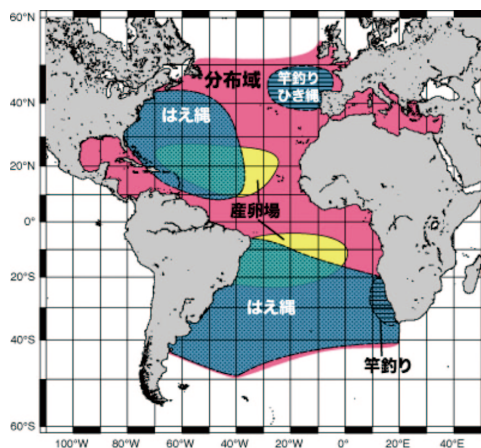
本資源の年間総漁獲量は1960年代中頃(約6万トン)をピークに、徐々に減少している。その原因は主としてひき縄、竿釣り及びはえ縄などの伝統的な漁法の努力量の減少による。総漁獲量は1999~2002年にかけて減少し2.3万トンまで減少した。その後、表層漁業による漁獲量が増加して、総漁獲量は2006年に3.7万トンにまで回復した。しかし、2007年から表層漁業及びはえ縄の両方の漁獲量が大きく減少し、2009年には1.5万トンとなった。これは1950年以降で最低の漁獲量であった。2010年以降、漁獲量は増加傾向に転じ、2012年には2.6万トンを記録した。これは、竿釣り及び表層漁業の漁獲増による。

資源状態

2013年6月にICCATにおいて資源評価が行われた。親魚資源量は1960年代以降MSYレベルを下回って推移したが、2000年以降に上昇傾向を示し、2011年はMSYの94%であった。漁獲率は1980年代以降、MSYレベルを上回って推移したが、最近年では減少傾向が認められ、2011年はMSYレベルの72%であった。将来予測の結果より、将来の漁獲量が現行の漁獲量レベル(2.0万トン)または現行のTACレベル(2.8万トン)であった場合、資源量は2012年レベルより増加すると予測された。



北大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係



大西洋のビンナガの分布と主な漁獲

管理方策

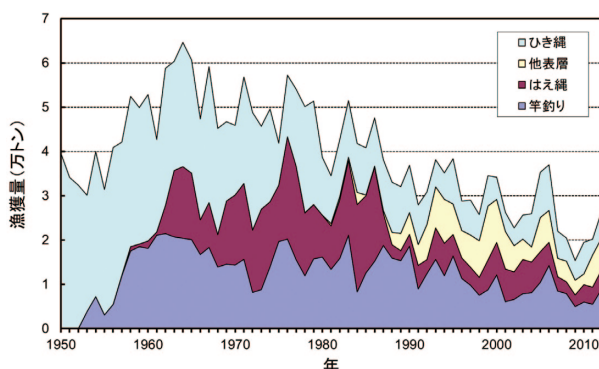
1999 年から漁獲能力を抑えるために、入漁隻数を制限しているほか、TAC も設定されており、2014～2016 年の漁獲に対する TAC は 2.8 万トンである。また日本については、北大西洋ビンナガを目的とした操業を行っていないので、漁獲量が大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の 4% 以下になるよう努力するという規制が課せられている。なお、北大西洋ビンナガについては、リミット・リファレンス・ポイント (LRP) を用いた「暫定的な漁獲管理規則 (HCRs)」の導入が検討されている。

資源評価まとめ

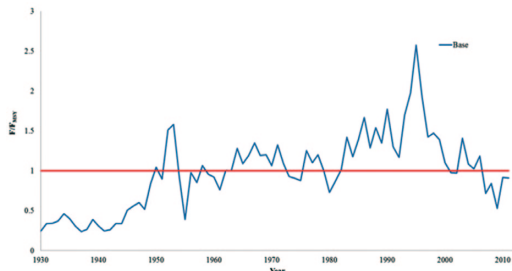
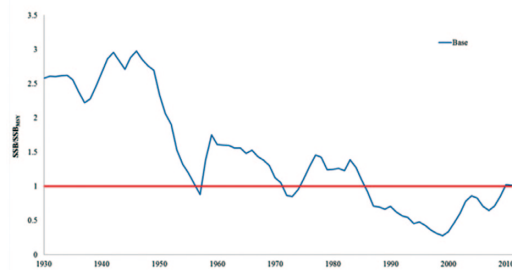
- 2011 年の親魚資源量は MSY レベルよりも低く、 B_{MSY} の 94%。
- 2011 年の漁獲係数は MSY レベルよりも低く、 F_{MSY} の 72%。

資源管理方策まとめ

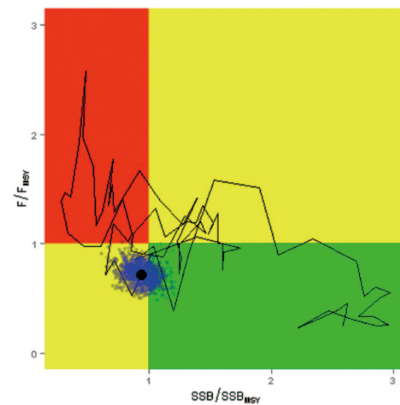
- 2014～2016 年の TAC を 2.8 万トンとし、国別クォータを設定。
- 漁獲能力 (隻数) の制限。
- 日本のビンナガ漁獲量は大西洋全体のはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下とする努力義務。



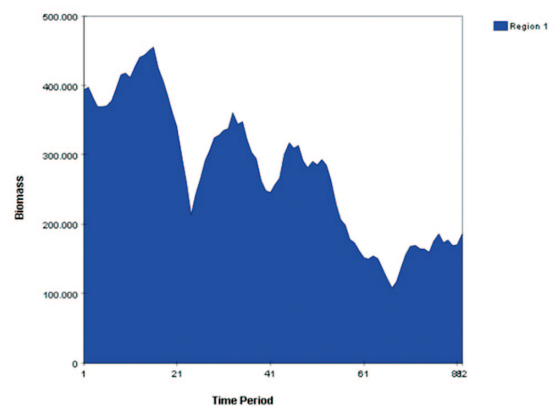
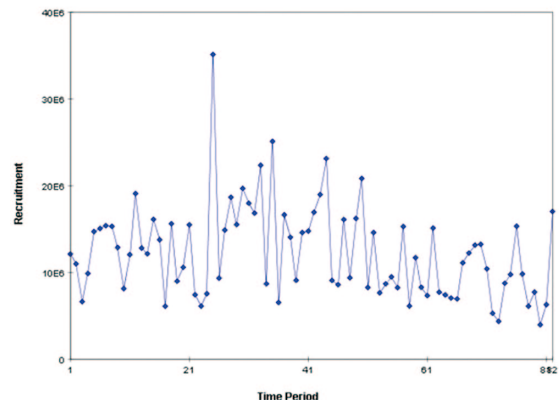
北大西洋ビンナガの漁法別漁獲量



北大西洋ビンナガの MSY を基準とした相対親魚資源量 (SSB/SSB_{MSY}) 及び相対漁獲係数 (F/F_{MSY})



北大西洋ビンナガの資源における相対親魚資源量 (SSB/SSB_{MSY}) と相対漁獲係数 (F/F_{MSY}) の 1930～2009 年における推移
 黒線: 資源状態の軌跡、黒点: 2009 年時の資源状態、青点: 不確実性を示す。



Multifan-CL モデルから得られた北大西洋ビンナガの 1930～2011 年の親魚資源量 (上) 及び加入量 (1 歳魚、下) の推移
 Biomass はトン、Recruitment は尾数で表示。Time period は 1930 年が 1 を示す。

ビンナガ (北大西洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	低 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1.5～2.6 万トン 平均: 2.0 万トン (2008～2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	288～658 トン 平均: 443 トン (2008～2012 年)